堺市・私立　賢明学院小学校
世界基準の英語テスト「TOEFL Primary®」を活用

小学校では5・6年生を対象とした外国語科（英語）が正式に始まり2年目を迎えている。堺市にあるカトリック系の私立学校、賢明学院小学校（板東正校長、児童数303名）では、1年生から6年間、週2～3回の英語の授業を行っている。その成果については、これまでGTECジュニアを全児童が受験、実用英語技能検定（英検）を希望者が受験してきたが、CEFRでA1レベル以上の児童も卒業時に半数ほどに増え、今回、国際的な英語運用能力テスト TOEFL Primary®を活用することで、さらに児童生徒の学習意欲を高め、世界標準の英語運用能力の育成をめざしている。

世界平和に貢献する英語力の育成

1960年に設立された賢明学院小学校は、併設している幼稚園とともに、カトリック校の特色を生かした英語教育を伝統的におこなってきた。

キリスト教的な人間観・世界観に基づき、世界の平和と発展に自ら貢献できる人間の育成を建学の精神としていることから、英語教育は「世界平和」につながる子どもたちのコミュニケーション能力を育むことを目標に、全学年で取り組んでいる。

併設の賢明学院中学高等学校は、女子校として2010年に、カトリック校としては大阪初の男女共学化が実現。それにより、中学受験にこだわらず、カトリック精神に基づく「心の教育」と、受験技術ではなく「生きる力」につながる「自ら考える能力」を身につけるための発展的学習を実践できるようになった。私立大はカトリック系の上智大学や南山大学をはじめ、1学年の生徒数を十分超える有名大学の指定校推薦枠を有する。

さらに2019年には関西学院大学と系属校協定を締結、高校段階で関西学院大学の教授陣が探究的な学習を行うなど、高大連携教育も進展中だ。

「関西学院大学特進サイエンスコース」は、35名×2クラス、70名の進学枠を有する。

これらの高等学校の幅広い進路保障により、小学校段階から発達段階に応じた英語教育を行うことが、将来の豊かな選択肢につながると考える。

また、英語以外の教科でも、日ごろの指導の成果が出ている。文部科学省が全国の小学6年生を対象に実施した「令和3年度全国学力・学習状況調査」において、算数の正答率は全国平均70・3%に対して、同校6年生の平均は87%と16%以上上回る結果となった。国語も全国平均64・9%に対して、78%と、こちらも13%以上も上回る結果を出している。

小学校では授業以外に、日々の英語学習の成果を試す機会も設けている。希望者を対象にした1週間のオーストラリア夏期ホームステイ体験会だ。現在は渡航が困難だため、オンラインでの交流を検討している。

コロナ禍が始まる前、6年生は修学旅行でイタリア・ローマとバチカンを訪れた。非英語圏で英語を用いた交流を経験することで、グローバル社会を意識した海外体験ができた。

Vocabulary
Look at the picture again. Fill in the blanks.
Look at the picture again. Fill in the blanks. Use correct objects.
Objects
Fill in the blanks.
Facebook Post
Facebook Post
Look at the picture again. Fill in the blanks. Use correct objects.
Objects
Fill in the blanks.
Facebook Post
Facebook Post
Take notes!
Dialogue
Dialogue
Dialogue